

## 1 人口動態統計

人口動態調査は、統計法による基幹統計調査として実施されており、「戸籍法」及び「死産の届け出に関する規程」に基づき、各市区町村長に届け出のあった出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の5種類の届出書等から、人口動態調査令により各調査票を作成する方法で行われています。

人口動態調査は国勢調査と並び、我が国の主要な統計の一つであり、各種行政施策の基礎資料として極めて重要な役割を果たしています。

### (1) 全道概況

平成29年の北海道の人口動態統計は、平成28年と比較して、死亡件数は増加し、出生・死産件数は減少しています。婚姻件数・離婚件数は減少しています。

出生数は、平成7年に大正・昭和・平成をとおして初めて5万人を割り込みましたが、その後も減少傾向が続き、平成29年は34,040人と前年より1,085人減少しました。

死亡数は511人増加して62,417人となり、出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、マイナス28,377人で、初めて自然減となった平成15年に続いて15年連続の自然減となりました。(表1)

表1 人口動態統計の概況

	実 数				比 率		平均発生間隔	
	29年	28年	増減	増減率	29年	28年	29年	28年
出生	34 040	35 125	-1 085	-3.1	6.4	6.6	日 時 分 秒	日 時 分 秒
死亡	62 417	61 906	511	0.8	11.8	11.6	0:15:26	0:15:00
乳児死亡	65	76	- 11	-14.5	1.9	2.2	0:08:25	0:08:31
新生児死亡	33	33	0	0.0	1.0	0.9	5: 14:46:09	4: 19:34:44
周産期死亡	149	117	32	27.4	4.4	3.3	11: 1:27:16	11: 2:10:55
妊娠満22週以後の死産	123	89	34	38.2	3.6	2.5	2: 10:47:31	3: 3:04:37
早期新生児死亡	26	28	- 2	-7.1	0.8	0.8	2: 23:13:10	4: 2:41:48
死産	990	901	89	9.9	28.3	25.0	14: 0:55:23	13: 1:42:51
自然死産	430	345	85	24.6	12.3	9.6	8:50:55	9:44:57
人工死産	560	556	4	0.7	16.0	15.4	20:22:20	1 1:27:39
婚姻	23 960	24 636	- 676	-2.7	4.5	4.6	15:38:34	15:47:55
離婚	10 147	10 476	- 329	-3.1	1.92	1.97	0:21:56	0:21:24
							0:51:48	0:50:19

#### 注1) 比率

乳児・新生児死亡率・・・出生千対、周産期死亡率・・・(出生+妊娠満22週以後の死産)千対

死産率・・・出産(出生+死産)千対

その他・・・人口千対

2) 率算出に用いた人口は、各年10月1日現在の推計日本人人口(総務省統計局)27年は、国勢調査日本人人口。

### (2) 二次保健医療福祉圏別概況

二次保健医療福祉圏別に各事象の比率をみると、出生では根室圏が7.2と最も高く、札幌圏の6.9と続き、最低は北空知圏の4.0となっています。

死亡では南檜山圏が17.2と最も高く、中空知圏16.3、北渡島檜山圏15.8、北空知圏15.5と続き、最低は札幌圏の9.6となっており、乳児死亡では釧路圏が4.4と最も高く、発生件数の無い圏域は南檜山圏、北渡島檜山圏、中空知圏、北空知圏、富良野圏、留萌圏、宗谷圏、北網圏となっています。

死産では北空知圏が44.4と最も高く、南渡島圏35.6と続き、最低は遠紋圏14.0となっています。

婚姻では根室圏が5.2と最も高く、東胆振圏5.1と続き、最低は南檜山圏の2.8となっています。

また、離婚では東胆振圏、根室圏が2.14と最も高く、最低は北空知圏の1.01となっています。(表2)

表2 二次保健医療福祉圏の人口動態

二次保健 医療福祉圏	出生	死亡	乳児死亡 (再掲)	新生児 死亡 (再掲)	周産期死亡			死産	婚姻	離婚
					総数	妊娠満22週 以後の死産	生後1週 未満死亡			
<b>全道計</b>	<b>34 046</b>	<b>62 427</b>	<b>65</b>	<b>33</b>	<b>149</b>	<b>123</b>	<b>26</b>	<b>988</b>	<b>23 958</b>	<b>10 150</b>
南渡島	2 056	5 252	7	4	10	7	3	76	1 480	776
南檜山	105	408	0	0	0	0	0	3	67	36
北渡島檜山	190	585	0	0	1	1	0	4	118	62
札幌	16 435	22 732	31	18	72	57	15	487	11 863	4 778
後志	1 090	3 255	2	2	2	0	2	29	740	333
南空知	743	2 465	1	1	3	2	1	19	506	231
中空知	487	1 774	0	0	3	3	0	16	362	175
北空知	129	507	0	0	1	1	0	6	84	33
西胆振	1 062	2 668	1	0	8	8	0	36	738	333
東胆振	1 441	2 413	4	1	5	4	1	38	1 074	453
日高	431	917	3	1	3	3	0	15	230	100
上川中部	2 516	4 939	5	2	10	8	2	69	1 720	714
上川北部	387	943	1	1	2	1	1	6	244	95
富良野	249	491	0	0	1	1	0	6	195	74
留萌	255	688	0	0	0	0	0	5	178	75
宗谷	404	875	0	0	0	0	0	10	295	120
北網	1 376	2 804	0	0	4	4	0	38	903	393
遠紋	423	959	1	0	0	0	0	6	264	113
十勝	2 367	3 865	1	1	10	10	0	63	1 482	600
釧路	1 351	2 982	6	1	10	10	0	42	1 016	493
根室	549	905	2	1	4	3	1	14	399	163
			実		数					
<b>全道計</b>	<b>6.4</b>	<b>11.6</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>4.5</b>	<b>1.9</b>
南渡島	5.4	13.8	3.4	1.9	4.8	3.4	1.5	35.6	3.9	2.04
南檜山	4.4	17.2	-	-	-	-	-	27.8	2.8	1.52
北渡島檜山	5.1	15.8	0.0	0.0	5.2	-	0.0	20.6	3.2	1.67
札幌	6.9	9.6	1.9	1.1	4.4	3.5	0.9	28.8	5.0	2.02
後志	5.1	15.2	1.8	1.8	1.8	0.0	1.8	25.9	3.5	1.55
南空知	4.5	14.8	-	-	4.0	2.7	-	24.9	3.0	1.39
中空知	4.5	16.3	-	-	-	-	-	31.8	3.3	1.61
北空知	4.0	15.5	-	-	-	-	-	44.4	2.6	1.01
西胆振	5.6	14.1	0.9	0.0	7.5	7.5	-	32.8	3.9	1.76
東胆振	6.8	11.4	2.8	-	3.5	2.8	-	25.7	5.1	2.14
日高	6.3	13.4	7.0	-	6.9	6.9	-	33.6	3.4	1.46
上川中部	6.4	12.6	2.0	0.8	4.0	3.2	0.8	26.7	4.4	1.82
上川北部	5.8	14.2	-	-	5.2	2.6	-	15.3	3.7	1.43
富良野	5.9	11.6	-	-	4.0	-	-	23.5	4.6	1.75
留萌	5.3	14.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.2	3.7	1.57
宗谷	6.1	13.1	-	-	0.0	0.0	-	24.2	4.4	1.80
北網	6.2	12.6	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0	26.9	4.1	1.77
遠紋	6.0	13.7	2.4	-	0.0	0.0	-	14.0	3.8	1.62
十勝	6.9	11.3	0.4	0.4	4.2	4.2	0.0	25.9	4.3	1.75
釧路	5.7	12.6	4.4	0.7	7.3	7.3	0.0	30.2	4.3	2.09
根室	7.2	11.9	3.6	1.8	7.2	5.4	1.8	24.9	5.2	2.14
			比		率					
<b>全道計</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
南渡島	6.0	8.4	10.8	12.1	6.7	5.7	11.5	7.7	6.2	7.6
南檜山	0.3	0.7	-	-	-	-	-	0.3	0.3	0.4
北渡島檜山	0.6	0.9	-	-	0.7	0.8	-	0.4	0.5	0.6
札幌	48.3	36.4	47.7	54.5	48.3	46.3	57.7	49.3	49.5	47.1
後志	3.2	5.2	3.1	6.1	1.3	-	7.7	2.9	3.1	3.3
南空知	2.2	3.9	1.5	3.0	2.0	1.6	3.8	1.9	2.1	2.3
中空知	1.4	2.8	-	-	2.0	2.4	-	1.6	1.5	1.7
北空知	0.4	0.8	-	-	0.7	0.8	-	0.6	0.4	0.3
西胆振	3.1	4.3	1.5	-	5.4	6.5	-	3.6	3.1	3.3
東胆振	4.2	3.9	6.2	3.0	3.4	3.3	3.8	3.8	4.5	4.5
日高	1.3	1.5	4.6	3.0	2.0	2.4	-	1.5	1.0	1.0
上川中部	7.4	7.9	7.7	6.1	6.7	6.5	7.7	7.0	7.2	7.0
上川北部	1.1	1.5	1.5	3.0	1.3	0.8	3.8	0.6	1.0	0.9
富良野	0.7	0.8	-	-	0.7	0.8	-	0.6	0.8	0.7
留萌	0.7	1.1	-	-	-	-	-	0.5	0.7	0.7
宗谷	1.2	1.4	-	-	-	-	-	1.0	1.2	1.2
北網	4.0	4.5	-	-	2.7	3.3	-	3.8	3.8	3.9
遠紋	1.2	1.5	1.5	-	-	-	-	0.6	1.1	1.1
十勝	7.0	6.2	1.5	3.0	6.7	8.1	-	6.4	6.2	5.9
釧路	4.0	4.8	9.2	3.0	6.7	8.1	-	4.3	4.2	4.9
根室	1.6	1.4	3.1	3.0	2.7	2.4	3.8	1.4	1.7	1.6
			割		合					

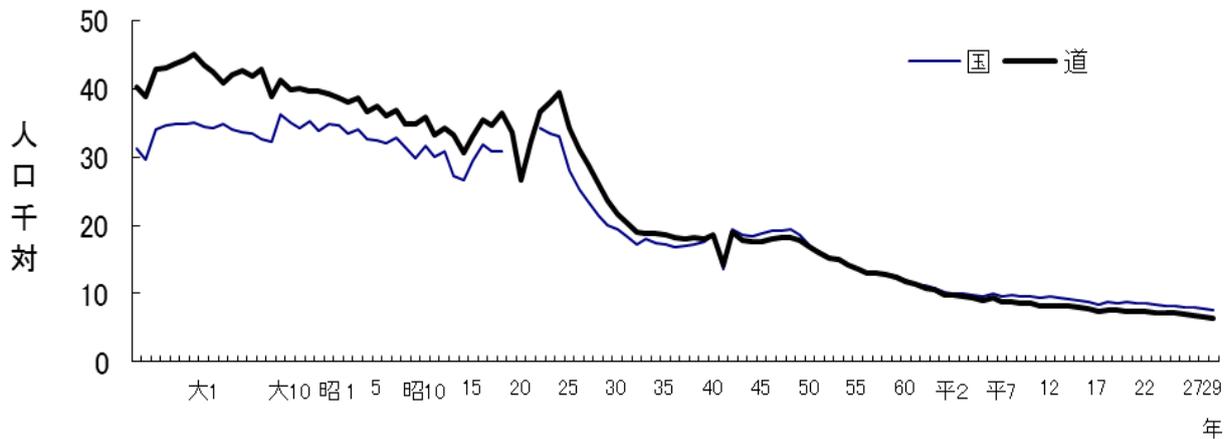
(3) 出生

平成29年の出生数は34,040人で、前年の35,125人より1,085人減少し、出生率（人口千対）は6.4でした。性別出生数は男17,503人、女16,537人となっています。

出生率の年次推移をみると、第一次ベビーブームの昭和24年の出生率は戦後最高の39.4を記録しています。その後急激に減少し、昭和32年には19.0まで減少しました。以後ほぼ横ばい状態で推移していましたが、昭和50年以降再び減少傾向に転じました。平成29年の出生率は6.4で過去最低になりました。

また、全国値の7.6と比較して1.2下回っています。（図1）

図1 出生率の年次推移(人口千対)



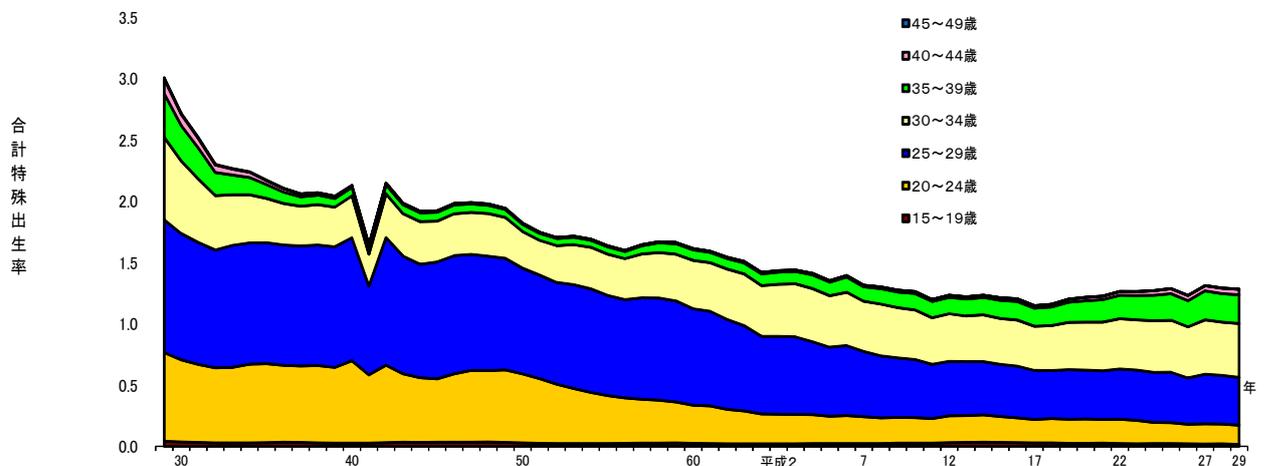
(4) 合計特殊出生率

合計特殊出生率の推移をみると、昭和25年は4.56と高い率でしたが、その後急激に低下し、昭和30年には3.0を割り、昭和30～40年代は「ひのえうま」（昭和41年）の特殊な動きを除けば2.0前後の水準で推移していましたが、昭和50年以降は再び低下傾向が続いており、平成17年には、1.15と過去最低値となりました。その後、増加傾向に転じ、平成29年は1.29となりました。

母の年齢階級別出生率でも、各年齢階級とも昭和25年から急激に低下しています。

昭和40年代になっても各年齢階級とも一定の水準で推移していましたが、昭和50年からは30歳代で上昇しているものの30歳未満の年齢階級では低下し、年齢階級毎に合計した合計特殊出生率は、低下傾向をたどっています。（図2）

図2 合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別)

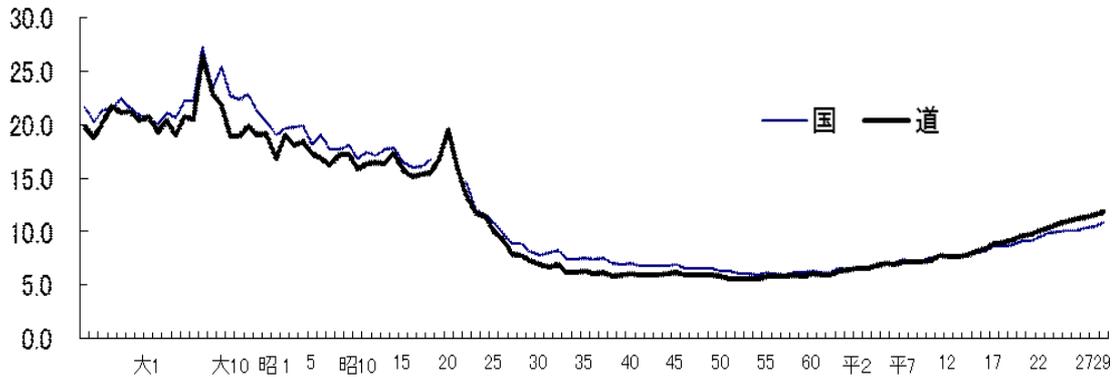


(5) 死亡

平成29年の死亡数は62,417人で前年の61,905人より511人増加し、死亡率（人口千対）は11.8で前年より0.2増加しました。男の死亡数は31,995人で前年の32,072人より77人減少し、女の死亡数は30,422人で前年の29,834人より588人増加しました。

死亡率（人口千対）の年次推移で見ると、戦後急速に低下し、昭和30年代半ばから緩やかな低下傾向になり、昭和53年前後は5.6と最低の死亡率を記録したものの、その後は上昇傾向に転じています。（図3）

図3 死亡率の年次推移(人口千対)

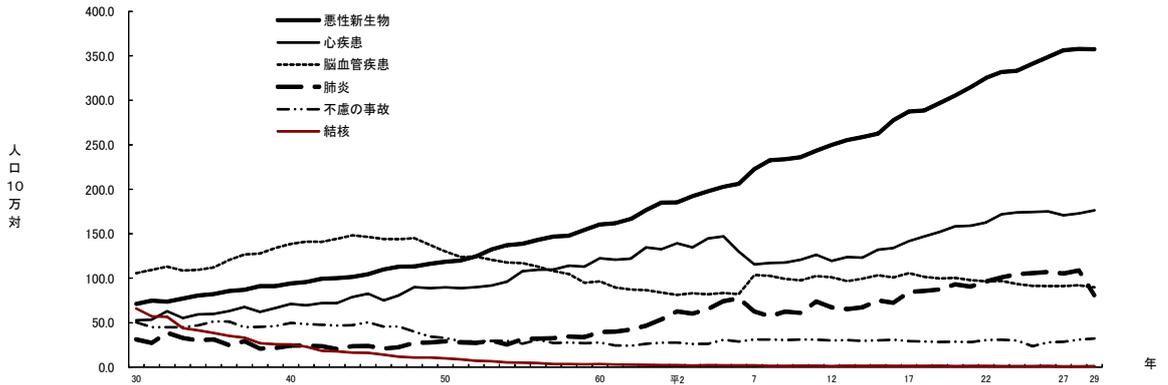


死因順位は、第1位は悪性新生物で19,158人・死亡率（人口10万対）357.4、第2位は心疾患で9,450人・死亡率（人口10万対）176.3、第3位は脳血管疾患で4,814人・死亡率（人口10万対）89.8となっており、死亡総数に占める割合は、悪性新生物30.7%、心疾患15.1%、脳血管疾患7.7%で、この3大死因が全体の約5割を占めています。（表3・図4・図5）

表3 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位・性別

死 因	平 成 2 9 年										
	総数			男			女			全国総数	
	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	死 亡 数	死 亡 率
<b>全 死 因</b>		<b>62 417</b>	<b>1,164.5</b>		<b>31 995</b>	<b>1265.5</b>		<b>30 422</b>	<b>1074.3</b>	<b>1 340 397</b>	<b>1069.6</b>
悪性新生物	1	19 158	357.4	1	11 095	438.8	1	8 063	284.7	373 334	297.9
心疾患	2	9 450	176.3	2	4 348	172.0	2	5 102	180.2	204 837	163.5
脳血管疾患	3	4 814	89.8	4	2 320	91.8	4	2 494	88.1	109 880	87.7
肺 炎	4	4 329	80.8	3	2 415	95.5	5	1 914	67.6	96 841	77.3
老 衰	5	3 624	67.6	6	916	36.2	3	2 708	95.6	101 396	80.9
不慮の事故	6	1 729	32.3	5	1 008	39.9	8	721	25.5	40 329	32.2
腎 不 全	7	1 480	27.6	7	696	27.5	7	784	27.7	25 134	20.1
大動脈瘤及び解離	8	980	18.3	10	471	18.6	12	509	18.0	19 126	15.3
自 殺	9	918	17.1	9	622	24.6	20	296	10.5	20 465	16.3
糖 尿 病	10	719	13.4	12	398	15.7	16	321	11.3	13 969	11.1

図4 主要死因の死亡率年次推移(人口10万対)



死因順位の第1位を占めている悪性新生物の部位別死亡率を年次推移でみると、男については、「胃」及び「肺」は前年度より上昇しており、「大腸」及び「肝」は減少しています。(図6)

また、女については、「乳房」及び「肝」が前年度より上昇しており、「胃」は減少しています。その他は、横ばい傾向となっています。(図7)

図5 平成29年主要死因の割合

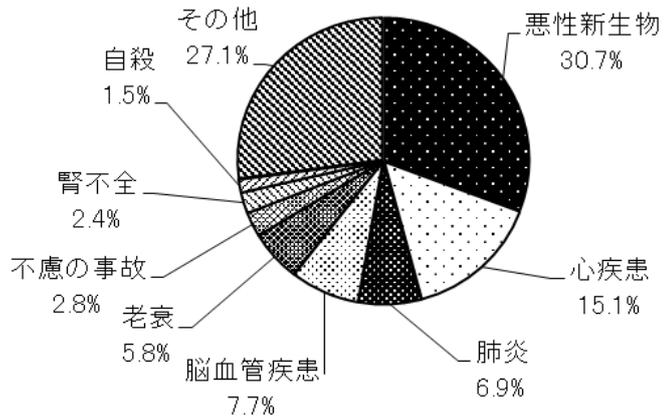


図6 悪性新生物の主な部位別死亡率(男)

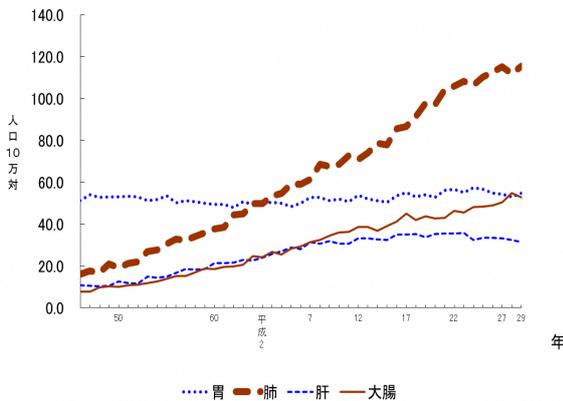
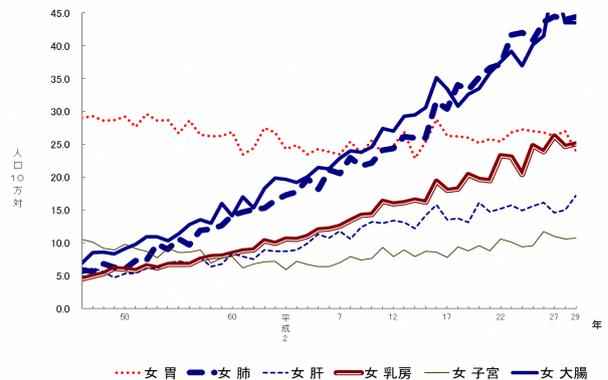


図7 悪性新生物の主な部位別死亡率(女)



### (6) 乳児死亡

平成29年の乳児死亡(生後1年未満の死亡)は65人で前年より11人減少しており、乳児死亡率(出生千対)も1.9で前年より0.3減少しました。死亡総数に占める割合は0.10%になっています。

乳児死亡率は昭和22年には82.8でしたが、その後一貫して低下傾向をたどり、昭和52年には10.0を割り、平成9年から3.0前後で推移し、平成20年から2.0台前半となっています。

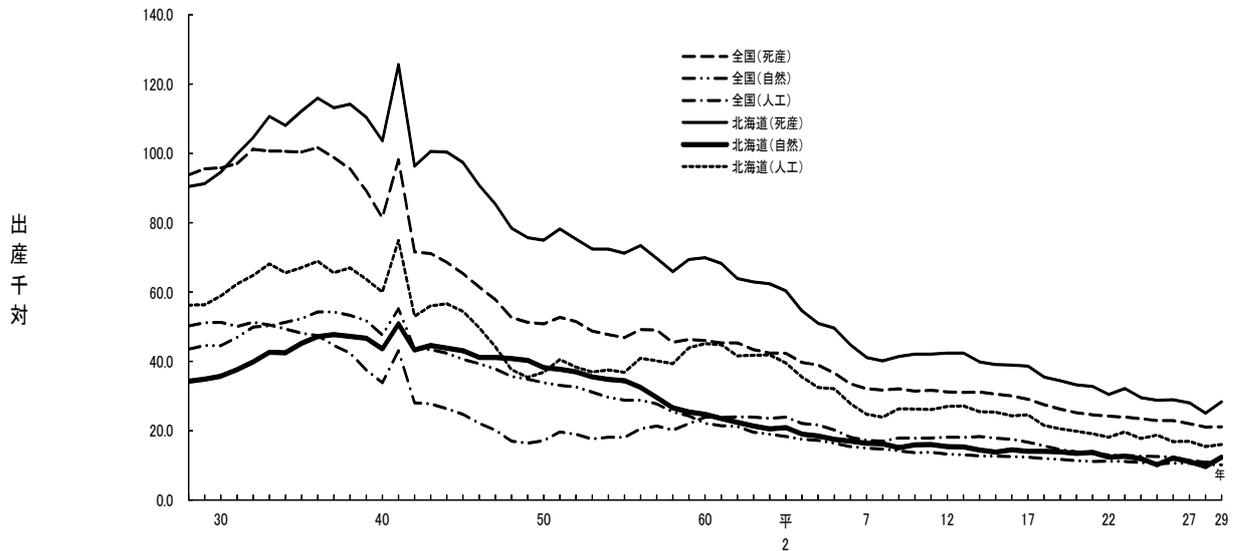
(7) 死産

平成29年の死産数は990胎で前年の901胎より89胎増加し、死産率（出産千対）は28.3で前年より3.3増加しました。

自然死産数は430胎で前年345胎より85胎増加し、自然死産率は12.3で前年より2.7増加しました。

人工死産数は560胎で前年の556胎より4胎増加し、人工死産率は16.0で前年より0.4増加しました。（図8）

図8 死産率(出産千対)



(8) 周産期死亡

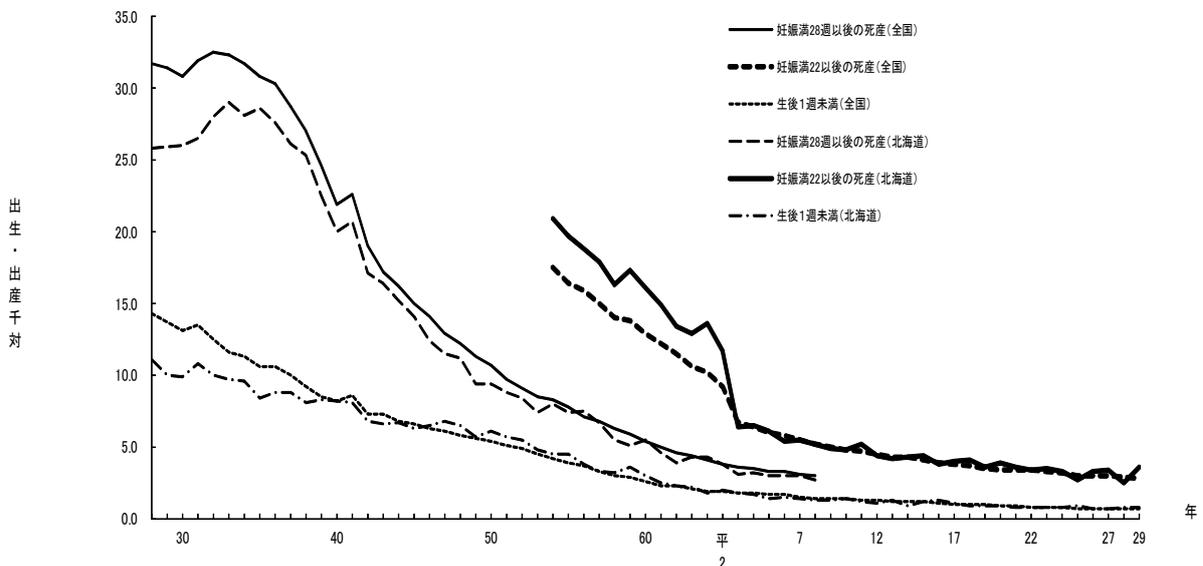
平成29年の周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数は149胎で前年の117胎より32胎増加し、周産期死亡率（出産千対）は4.4で前年より1.1増加しました。

妊娠満22週以後の死産数は123胎で前年より34胎増加し、妊娠満22週以後の死産率（出産千対）は3.6で前年より1.1増加しています。

なお、早期新生児死亡数は26胎で前年より2胎減少しており、早期新生児死亡率（出生千対）は0.8で前年と同様です。（図9）

※周産期死亡の妊娠週数は、WHOの勧告に基づき平成7年から満28週から満22週に改定されています。

図9 周産期死亡年次推移



### (9) 婚姻

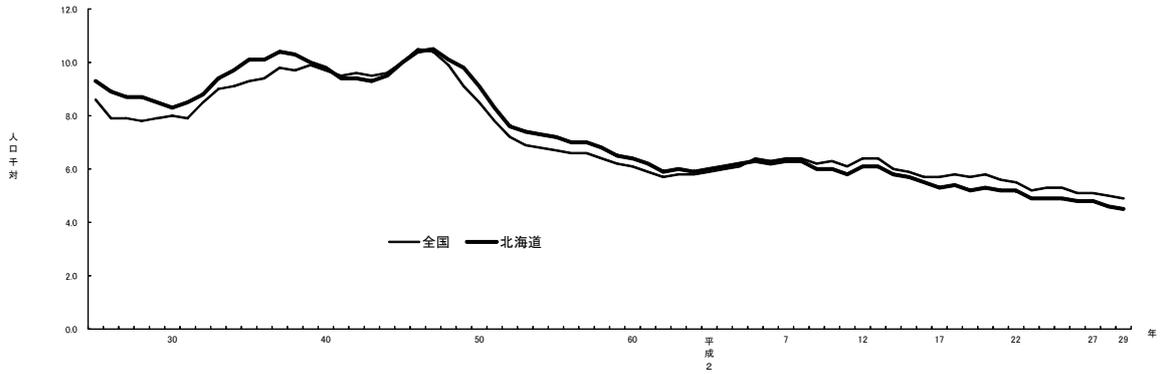
平成29年の婚姻件数は23,960件で、前年の24,636件より676件減少しました。

婚姻率の年次推移をみると、昭和20年代前半は10～11と高率でしたが、以後、急激に低下し、昭和30年には8.3まで下がりました。

その後上昇に転じ、昭和35～49年では1.0前後で推移していましたが、昭和50年から再び低下傾向が続いていました。

平成29年は4.5と前年より0.1減少しています。(図10)

図10 婚姻率(人口千対)の年次推移



平均初婚年齢をみると、夫30.7歳、妻29.3歳となって、第二次婚姻ブームの昭和47年の初婚年齢（夫26.0歳、妻23.8歳）と比べて夫は4.7歳、妻は5.5歳高くなっています。(図11、図12)

図11 平均初婚年齢の年次推移

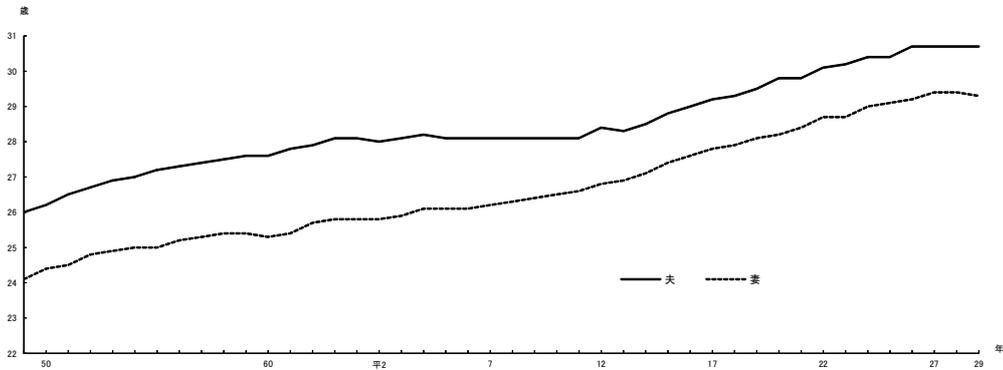
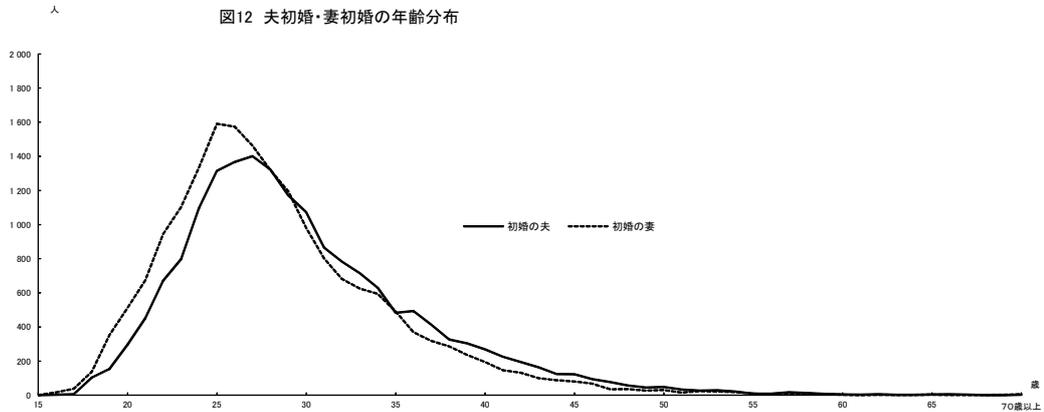


図12 夫初婚・妻初婚の年齢分布



(10) 離婚

平成29年の離婚件数は10,147件で前年の10,476件より329件減少しています。

離婚率（人口千対）は1.92で前年の1.97を0.05下回っています。

離婚率の年次推移をみると、戦後から昭和30年代までは、ほぼ横ばいで推移しましたが、昭和40年代から徐々に上昇し、昭和59年には2.33とそれまでの最高を記録しています。

その後、低下傾向にありましたが、平成3年から再び上昇し、平成14年には2.77と史上最高値を記録しました。（図13）

同居期間別の離婚割合では、5年～10年未満が最も多く、また年齢階級別でみると、30歳代が高い割合を占めています。（図14、図15）

